

講義名	研究演習
講義コード	52040
担当教員	木村 敏夫
開講期・曜日・時限	後期 金曜日 2時限
備考	

ゼミ
企業財務分析
学部
商学部
学科
経営学科
演習名
木村敏夫

概要説明
<p>本演習の目標は、「会社を知る」ことに在る。その方法を考える。企業が公表する会社は、沿革、株式、株主、生産・販売等の情報が記載される「有価証券報告書」、IR情報等を主に利用して「企業」の現状・将来を把握する方法を学ぶことにある。会社が公開する情報の大半が財務情報である。したがって、主に、財務情報等を助けに、「企業（会社）」を見る、分析し、評価する。企業の財務情報を理解するには、その情報を作成の基礎である「企業会計」「財務（管理）論」の理解が不可欠である。企業が行う経済活動（資本調達、資本運用、生産・販売等）は企業会計の仕組みを通して認識・測定、記録され、一定期間別に財務報告書に要約される。企業を分析する資料として財務報告書の理解が不可欠である。このため、本演習は、分析資料を作成する基礎となる「企業会計」を学習し、最終的に財務報告書に集約された有価証券報告書等の企業情報に示される「情報」が何を意味しているのか、さらに、企業の現状、将来の状況を分析するために如何に利用できるか、またその限界を修得することを演習目的とする。</p>

学位
経営学修士

教員よりの要望
<p>自他とも認める劣等生ですから自戒を込めて言います。耳が痛い人も多くいるでしょう。痛いと感じてほしいですが、「人」として生まれたからには「人」として生きていく力が内在する。時間とともにその力（能力）が形成されていくのではないかと、一言で言えば「学び、です（学ぶことをしない、わずれた人は、「人」として成立しない。人以下でしょうか。人格の形成できない）。小学校、中学・高校、地球、親戚・友人等から学んできていませんか。「人間（ひと）は誰でも生きていく能力を持って生まれている。人として生まれ、人の社会組織で生きていくために、学びを忘れているかもしれない」。皆さん、これまで、能力を形成するためなにかしてききましたか、自分に備わっている（学び取る、自ら学ぶ）能力を使っていないのでは。その能力を使えるようにしないのですか。使い方を知らないか、使わなかったかではないですか（自省、内省）。能力は使うほど伸びますし、蓄えられていきます。最近、言われている「格差」とは、能力を蓄えてきていないか、使うが使わなかったかの差ではないのかな。格差は置かれた諸環境に左右されることは事実として存在するとしても、その格差の下にわれわれはいる。所与としようよ。それを受け入れようよ。ではどうするかこれが今後の課題だね。</p> <p>努力が結果、経済的な結果に結びつかないと思いませんが、無駄だと思いませんが、努力に勝る才能はない、努力（時間と金がかかり苦痛を伴う）して獲得したものは一生の「資産」になる。ところが、この資産、一生償却することはない（なくならない、価値が減らない）。努力しないで（努力を使わず）取得したものは「泡と消えます」（何も残らない、バブルです）が、努力して得た資産は、目に見えない「永久資産・無形資産」（何れ形を成して出現する）になる。</p>

教員英字氏名
TOSHIO KIMURA
研究室
2704
最終学歴
専修大学商学研究科博士後期課程満期退学
主な研究活動・社会活動・研究業績
主な卒業論文のタイトル
<p>フジッコ株式会社の財務分析 アイフオセント株式会社の財務分析 CSKホールディング財務情報分析 兵庫興信信用組合の財務分析 リーマンショックとはなんだったのか V字回復の本質・日本マクドナルドホールディングス</p>
趣味・特技
所属
商学部経営学科
所属学会
日本会計研究学会、日本マネジメント学会、日本経営分析学会
専門分野
会計学、財務分析
選考方法
面接
担当科目
基礎簿記、経営情報分析、財務分析論
備考
<p>「知る」ためには鍛錬を必要とする。演習目的を達成するために、2年後期から4年卒業研究に至る学習サイクル、財務情報、財務分析、卒業研究（企業分析事例）を一巡と考え指導する。この学習サイクルを一巡するために、財務情報の仕組を知る必要がある。3年次前期の演習時間は「企業財務」の理解に充当する。3年次後</p>
評価方法
課題報告